こんなことやっています。こんなところでがんばっています。

地域おこし協力隊通信

過去を生かす 備えにしよう

12月26日、協力隊の山田周さんが地震について考える講演会を開催しました。

東日本大震災から10年が経過したことから、震災当時宮城県石巻市で小学校の教諭をしていた片岡有吾さんを講師に招き、被災した学校や地域の様子などを紹介しました。

登壇する講師の片岡さん

津波の被害が当時を物語る

片岡さんは「被災地の人間として伝えたいこと、経験したことを長島町のみなさんへ」をテーマに登壇。

「地震で亡くなった人はほとんどいなかった。津波で亡くなった人のほうがはるかに多かった」と話し、自身の被災体験を当時の記録映像と共に語りました。

クイズ形式を取り入れた講演会では、参加者らは自分自身と照らし合わせながら、過去の経験を生かす「備え」に聞き入りました。

参加した藤後智明さん（伊唐）は「危機意識が高まった講演会だった。家族と備えについて話したい」と振り返りました。

- 自分の命は、自分で守る。
- 自然災害は、必ずやってくるもの。
- 常に災害に対して、「物（物資）」と「心（意識）」を備えておく。
- 実は水害（津波、大雨）が恐ろしい。
- どこに避難するか、家族と事前に決めておく。
- 「備え」は、災害が起こらずとも無駄ではない。災害が起こらないことは「幸い」である。

夢に向かって進む これからの君へ

2月3日、川床中学校（前原貢子校長・40人）で行われた立志のつどいで、協力隊の江副佑輔さんが記念講話を担当しました。

講話では、江副さんのこれまでのキャリアや協力隊での活動を、デザインした制作物を交えて2年生12人に話しました。

柏木瑠璃さん（川床中2年）は「自分自身について改めて考えるきっかけになった。夢を叶えるために失敗しても努力し続けていきたいと思った」と今後の意気込みを語りました。

講話の様子